

被災地 NPO 法人の活動報告

～ 夢ネット大船渡 ～ 平成 23 年 4 月～平成 24 年 6 月

◆ 大船渡市・陸前高田市の被災状況 平成 24 年 6 月現在

	死者 (人)	行方不明者 (人)	家屋倒壊数 (棟)
陸前高田市	1,555	228 (内死亡届 207)	3,341
大船渡市	340	81 (内死亡届 68)	3,629

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震は三陸沖を震源とするものの、北は岩手県沖から南は茨城県沖まで広範囲の震源域における連動型地震となっており、地震予知連絡会や国の地震調査研究推進本部も「想定される宮城県沖地震も同時に発生した」との見解を示している。地震調査研究推進本部は、このような複数の震源域が連動する地震は、平均約 600 年間隔で発生していると推定した。(ネット：ウィキペディアより)

23 年 4 月時点	避難所数	避難者数
陸前高田市	105 ヶ所	15,299 人
大船渡市	91 ヶ所	6,287 人
住田町	1 ヶ所	1 人

平成 24 年 6 月 1 日現在

	応急仮設 団地数	応急仮設 住宅戸数
陸前高田市	53	2,168
大船渡市	39	1,811
住田町	3	93

夢ネット大船渡の活動

◆ 仮設住宅のパトロール

23 年 8 月からジャパン・プラットフォームの助成を受けて、職員 3 名を雇用して被災者支援情報紙「みらい」を 5,000 部発行し、全仮設住宅のパトロールを兼ねて配布を開始した。すべて手探りで被災者支援活動であった。何度か仮設住宅を訪問していると、県外からのボランティアの方と知り合いになったり、被災者との交流も出来た。手芸など辛さを忘れるために、布地や毛糸が欲しいとの要望もあったので、ネットで呼びかけて全国から支援を受けて届けた。

23 年 11 月～24 年 5 月まで訪問数

	在宅・みなし訪問数
大船渡市	286
陸前高田市	75

◆ 在宅・みなし仮設訪問

また、支援が少ないと言われる在宅やみなし仮設被災者の訪問も行いましたが、場所が分からず十分な支援は出来ませんでした。多くの方から喜ばれました。

◆ 男の出番が少ない

お母さん方には手芸やお茶会など、集まる機会が多いが、男性には生きがい支援が少ないとの要望もあり、元大工さんが多いことから、仮設住宅の押入れの棚が少ないとの意見から、旧大工チームを作り、下記の仮設住宅の希望者へ、実費にて棚作りを行いました。

横田中学校仮設：14 件、横田小学校仮設：7 件、片地家仮設：3 件、打越仮設：1 件、矢作小学校仮設：3 件、諏訪仮設：5 件、合計 33 世帯の棚づくりを行いました。



仮設住宅の押入れに棚設置

特定非営利活動法人夢ネット大船渡

〒022-0003 大船渡市盛町字内ノ目 14-15 電話・fax 0192-47-3271

メール npoyumenet@bz01.plala.or.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/npoyumenet/NPO.html>

◆ 手芸材料支援・作品展開催

多くの支援団体から仮設住宅で「ろうさん」「ミサンガ」「ブローチ」等の講習会が行われ、一部は販売まで行われています。夢ネットの職員も、手芸材料を希望者へ届けたり、「アクリルたわし」「巾着」「フクロウ」等の講習を仮設住宅集会所で行って来ました。



大船渡市の
手芸作品展

布地・毛糸を届けた世帯数

	毛糸	布地
大船渡市	75	53
陸前高田市	59	44

その結果手芸作品が事務所に届くようになりましたので、作品展を行い作品と同じ趣味を持つ方の交流を考え、24年2月には陸前高田市と大船渡市で「手芸展」を行いました。その会場でのアンケートによれば、内職へつなげたいと答えた方が約20%あり

りました。



手芸の内職希望者の打合せ

◆ 現在内職希望者の手芸を集め、イベントへ発送

5月に大船渡市と陸前高田市で、手芸を行い内職へつなげたいとの希望者に集まって頂きました。案内が不十分であったため出席者は少なかったが、内職支援が開始しました。

昨年から数回支援に来ていた大阪の元気人間製造研究所の森重子理事長から、イベント販売への出品依頼があり、発送したところ約15万円の売上となりました。

これまで三鉄盛駅ふれあい待合室で、被災者の手芸品を販売してきましたが、今後は大都市でのイベントへも出荷いたします。

6月末にはいけぶくろ質屋組合実行委員会から、サンシャインビルでのイベント販売案内があり、被災者の手芸品を集めて出荷します。

手芸の販売希望者の受付を行っているところです。



ふれあい待合室開所式 大船渡市長

◆ 三陸鉄道盛駅ふれあい待合室 県から委託

大船渡市の中心地にある三鉄盛駅は、被災し列車が運行出来ません。駅舎が「施錠したままでは復興につながらない」との要望に岩手県が応え、夢ネット大船渡が委託を受けて、23年10月からまちの活性化創生の拠点となる活動を始めました。



ふれあい待合室

延 13,526 人が利用 (23年10月から24年5月まで)

- ①お茶もあり交流も出来ます、②救援物資もあります、③無料法律相談月2回行っていきます(131件の相談あり)、④復興歌声列車(4回延109名参加)やふれあいうォーキング(4回延92名参加)もあります、⑤被災者の手芸品を販売しています、⑥

宿泊先の紹介やバス時刻を案内しています、⑦手芸講座も開いています、⑧子ども服の交換所にも利用しています、⑨毎日多くの被災ツアーが訪れ、被災状況の説明を受け、被災地支援の買い物に協力を頂いています。



相談に弁護士が対応

三鉄盛駅ふれあい待合室 〒022-0003 大船渡市盛町字東町裏 16

Tel・fax 0192-47-3542 メール santetsufureai@snow.plala.or.jp

ホームページ <http://santetsufureai.web.fc2.com/>

「気仙市民復興連絡会」活動紹介



夢ネット大船渡の平成 23 年度被災者支援活動を報告する際、気仙市民復興連絡会の活動を紹介しなければなりません。

23年4月愛知ネット(天野理事長)の支援のもと、気仙地域の市民活動団体による被災者支援活動を行う「気仙市民復興連絡会」を結成したのが4月5日でした。

救援物資の運搬、炊き出し、想いで探し、手づくり情報紙発行等の活動を開始しました。さらに9月からは中央共同募金会から助成を受け職員を雇用して、復興ニュースの毎月2回発行(4,000部)・配布、手芸材料の布地や毛糸を要望する被災者へ届けるなど、県内外支援団体と交流を図りながら、皆で被災者支援を行って来ました。

■ 炊き出しやお茶会

4月11日から愛知ネットやコープあいちが中心となって、連絡会に参加する団体会員の協力により避難所での炊き出しが始まった。この炊き出しには地元のもさばロハス、椿ガイドの会の皆さんの協力が大きく、4月に13回、5月に17回の炊き出しを行いました。その後も仮設や地域公民館、三鉄ふれあい待合室等でお茶会を行って来ました。



赤崎町漁村センター炊き出し



神奈川ボラの写真探し隊

■ 想いで探し隊

防災研の支援もあり神奈川災害ボランティアネットワークから何度もバスで支援に来て頂き、探し出した写真を洗浄し、乾燥させ、本人へ返す活動を連絡会と一緒に行って頂きました。

本人へ返した写真は1万枚以上になったと思っています。

■ 復興ニュース発行・配布

4月11日から活動を知らせるため「復興ニュース」を随時発行し、第17号から愛知ネットのボランティア山口奈美さんが発行を引き受け、各地を飛び回って取材し、配布して頂きました。山口奈美さんの活躍はテレビ(左写真)でも放映されました。

現在の復興ニュースは、夢ネット大船渡が日本

NPOセンターの助成を受けて、引続き発行し第68号(6月25日付)となりました。

■ 親子広場等子育て支援

毎月開催の親子広場、リンゴ狩り、クリスマス会等子育てサポータースマイルさんが中心となって行いました。



米崎小避難所の炊き出し



大中避難所 写真お返し展



米崎町でのりんご狩り

気仙市民復興連絡会は解散し 気仙ネットワーク会議へ

構成団体独自の活動や連絡会事務所の廃止等から、連絡会は発展的に解消し、被災前から検討していました「気仙市民活動団体ネットワーク会議」結成へつなぐことにいたしました。この間夢ネット大船渡がその任に当たることにしています。

夢ネット大船渡活動紹介

◆三陸海の盆「送り火」

遠野まごころネットの呼びかけに応え、開催地の末崎地区公民館や地元の方々と実行委員会を結成し、23年8月16日に大船渡市末崎町門之浜海岸で開催しました。

大船渡町赤沢の鬼剣舞、御詠歌、詩吟の方々のご協力もあり、約600人にお出で頂き、津波被害者の霊を慰めることが出来ました。



三陸海の盆「送り火」会場

◆東京調布ライオンズクラブ自転車152台寄贈



米崎コミセン 自転車寄贈

さんりく・おおふなとふるさと大使の千田俊章様のご尽力により、調布市駅前に放置されている自転車を調布市からライオンズクラブが引き取り、修理して発送費を負担し、被災地へ寄贈頂きました。これまで6回に渡って152台を贈って頂きました。



全国ふるさと大使連絡会議から義援金30万受けました。大船渡市役所前

◆復興ほら吹き大会

被災者から楽しみが少なく計画へ夢を語るホラ吹き大会あったことから、第6回復興ほの名称で、資金も協賛金として名刺交換した方々へお願い状しました。結果は44件25万円頂きました。13名の発表者、場者を迎えて盛大に開催することが出来ました。



なった、復興の再開要望もら吹き大会と岩城理事長とを発送いたしのご協賛金を800人のご来

◆東芝からパソコン、エプソンからプロジェクター寄贈

被災地は離職者が多いことから、厚生労働省の基金訓練等を行うためパソコンが必要だろうとのご好意により、東芝様からパソコン90台、セーコーエプソン様からプロジェクターとスクリーンを3組寄贈頂きました。ふるさと大使の千田俊章様のご尽力の結果です。現在猪川地区館でパソコン講座を開いています。



千田俊章さん
パソコン講座で挨拶



西村副理事長が説明

◆三陸鉄道ツーリストのガイド役

大船渡市の被災地説明役を引き受け、これまで国内はもとより、アフリカや東南アジアの国々の方へ、津波被害状況や今後の防災への心構えなどを説明しています。

ご案内いたしますので、説明を受けたい方々ご連絡ください。

◆大阪：元気人間製造研究所他

大阪の元気人間製造研究所（森重子理事長）、山形県くらしの共生福祉互助会（村井明理事長）、浜松地域づくりサポートネット、コープあいちをはじめ多くの県外支援団体と一緒に、被災者支援活動を行っています。



元気人間の皆さん



三鉄盛駅ホーム清掃

◆北上市ボランティア連絡協議会

事務局担当松田正徳さん（北上市）、全国からボランティアを受け入れ、被災地へ派遣しています。夢ネット大船渡との共催事業も多数あり、三鉄盛駅清掃もその一つです。また、被災地へ花を植えたいとの願いで、6月末には花苗を持参し植える予定です。